

【修斉校区】

学校適正化に向けた校区懇談会
(第2回)



第1回懇談会でいただいたご質問について

☆第1回懇談会の場や、懇談会終了後に配布したご意見・ご質問用紙を通じて、修斉校区の皆様から多くのご意見やご質問をいただきました。



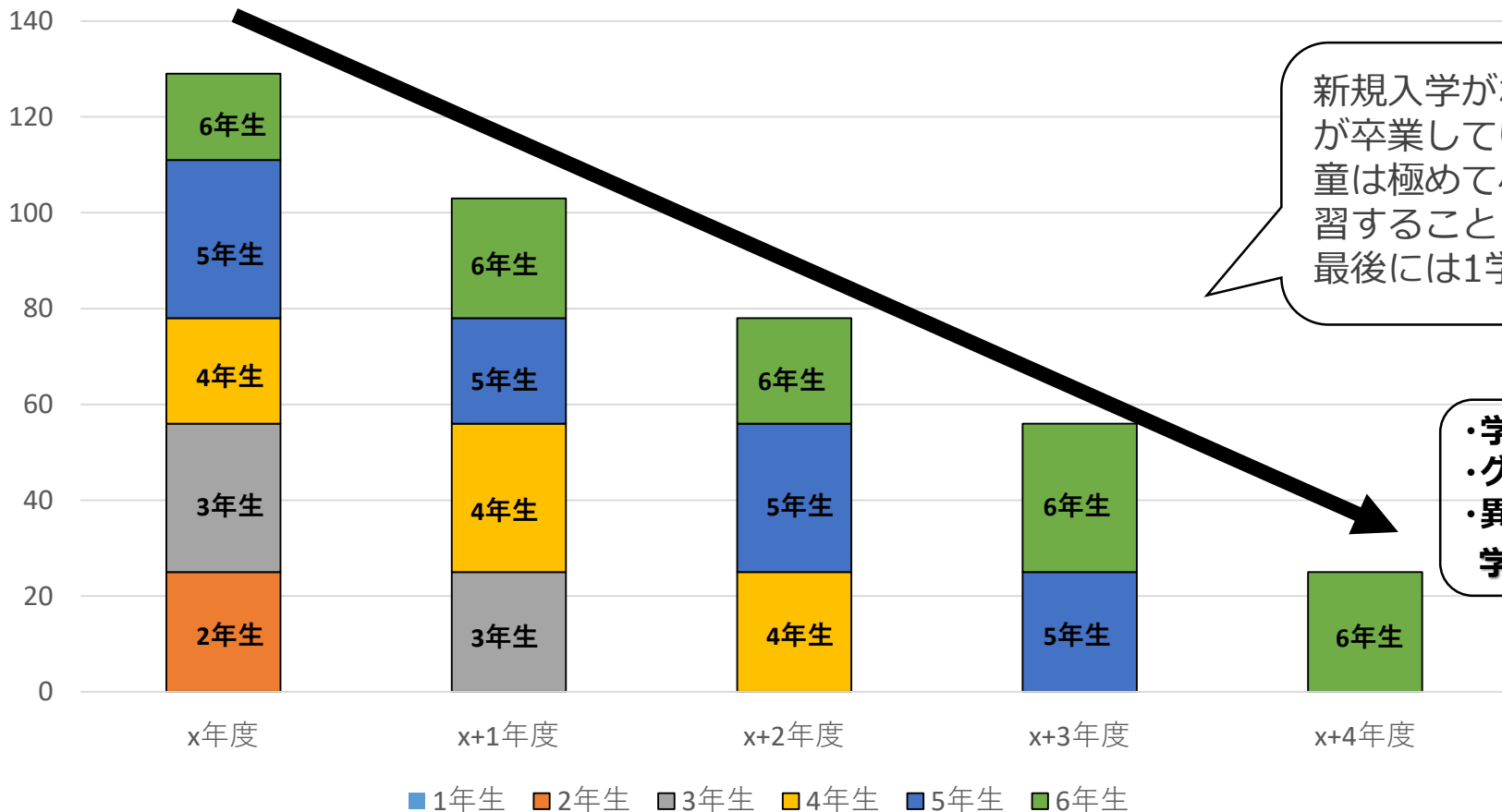
それらのご意見等に対する教育委員会の考え方や、先進事例などについて、2ページ以降の資料でご説明します。

第1回懇談会でいただいたご質問について

Q.在校生は現・修斉小学校へ卒業時まで通うことができるのか？

A.新たな学校が開校する時点で在校する児童は、一斉に新たな学校へ移ることになります。

☆在校生が卒業時までその学校に通い続けた場合・・・(※新校開校年度をx年度と表記)



第1回懇談会でいただいたご質問について

Q.新たな小中一貫校に転入する際、高学年の制服購入などはどうなる？

A.開校初期における制服の取り扱いは、保護者のご意見を踏まえて柔軟に対応します。
また、新たな学校における制服(標準服)の指定については、(仮称)学校開校準備委員会での協議を踏まえて決定します。

【先進事例について】

学校名	制服(標準服) or私服	備考・開校時の配慮など
東条学園 (兵庫県加東市・義務教育学校)	1~4年生は私服 5~9年生は制服	開校時の5年生以上はその時点で制服を購入 (ズボンやスカートは男女の区別なく選択可能)
大栄みらい学園 (千葉県成田市・義務教育学校)	制服	入学時や7年生進級時から制服を購入・着用 開校時の在校生は、3年間は私服や旧校制服の着用可
五條東小学校 (奈良県五條市・統合小学校)	制服	統合時の1年生から制服を採用 統合時の2年生以上については、私服でも可とする
大泉学園桜小・中学校 (東京都練馬区・小中一貫型小中学校)	標準服 制服	1~6年生は、標準服(学校が着用を推奨する服装)を定めており、そちらの着用も可

☆新たな学校の開校前に、在校生保護者及び未就学児保護者を対象にアンケートを実施し、その結果を踏まえて制服(標準服)の取り扱いを定める事例も多くみられます。

第1回懇談会でいただいたご質問について

Q.現修斉小学校で行っている「放課後子ども教室」はどのようなのか？

A.「放課後子ども教室」は、学校以外の場所でも実施することができるため、仮に修斉小学校が閉校となった後も、地域の公共施設等を活用して実施することも考えられます。

Q.単学級ではなくなったとしても、少人数教室での習熟度別指導などは続けてくれるのか？

A.少人数指導は継続して実施します。

Q.これまで行ってきた幼小連携の取組はどのようなのか？

A.これまでの幼小連携の取組を継承する形で、校区にある幼児教育施設(保育所・こども園等)との連携を図ってまいります。

これまでの主な幼小連携の取組

- 行事への参加や各学年児童との交流
- 幼・小教員間の情報共有会や合同研修会などの開催
- 小学校教育との滑らかな接続を意識したアプローチカリキュラムの作成 など…

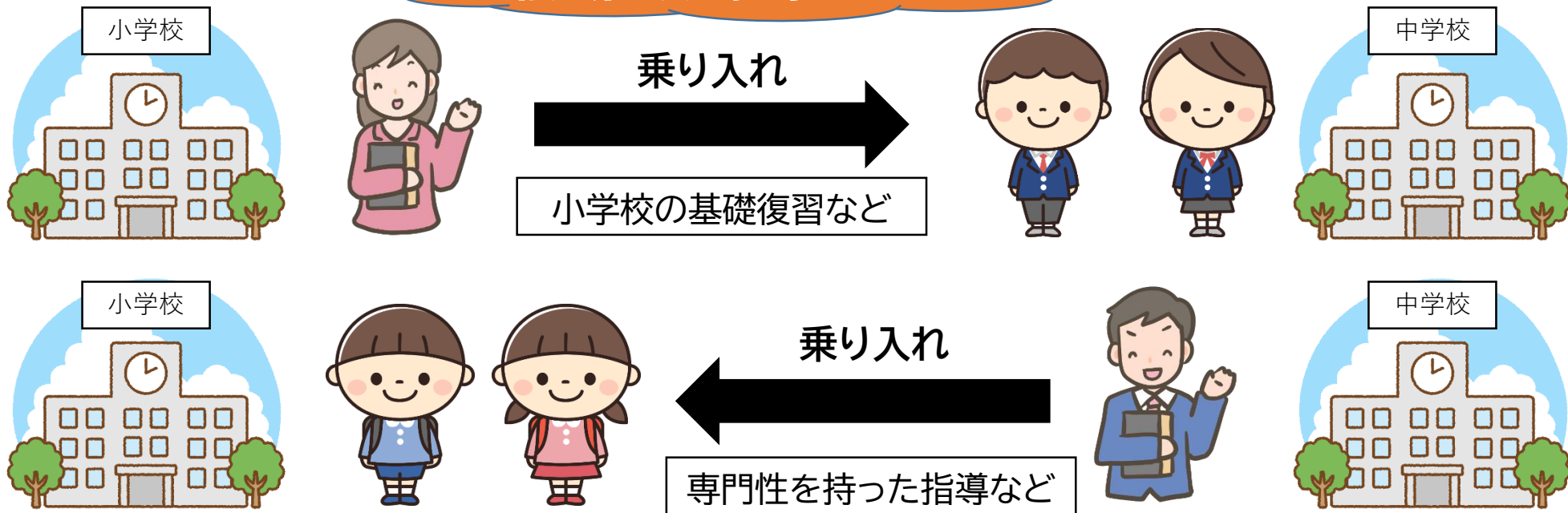
第1回懇談会でいただいたご質問について

Q.教員配置はどうか？相互乗り入れを行う場合の教員免許の取り扱いは？

A.教員免許について、小中両方の教員免許を所持している教員は、小学校、中学校いずれにおいても授業の実施が可能となり、相互乗り入れ指導を行う上で利点となります。

新たな小中一貫校では、小中両方の教員免許を所持している教員を適切に配置します。

相互乗り入れ指導のイメージ



☆本市における、小中両方の教員免許を持つ教員の割合は31.3%です。
新たな一貫校開校後も、バランスの取れた教員配置に努めます。

第1回懇談会でいただいたご質問について

Q.通学区域見直し対象校区では、新たな学校開校後に兄弟姉妹で別々の学校へ通うことになるのか？その際の対応は？

A.旭・太田校区や常盤校区では、一部地域で通学区域を見直す案をお示しているところですが、見直しの際は兄弟姉妹が離れ離れにならない対応を考えています。

Q.小学校高学年が中学校の部活動に参加できるとあるが、体力差や実力差があったり、活動時間の違いなどから練習量等に差がつきやすいのでは？

A.先進自治体では、施設一体型小中一貫校や義務教育学校において、小学校高学年の児童が中学校の部活動に参加する事例が多く見られますが、あくまでも「参加が可能」ということであり、参加する小学校児童、参加を受け入れる中学校生徒、双方の相互理解に基づきながら、適切に実施されているものと捉えています。

本市の取り扱いについては、それら先進事例の取組や、国における部活動の方向性も踏まえつつ、今後決定していきます。

第1回懇談会でいただいたご質問について

Q.通学路の危険箇所見直しが必要では？(神須屋交差点や塔原線から蜻蛉池公園へ抜ける交差点など)

A.ご指摘の箇所も含め、個々の具体的な箇所に応じた安全対策については、(仮称)学校開校準備委員会での検証を踏まえて実施していきます。

Q.通学手段として小学生にも自転車通学を許可するのか？

(スクールバスと時間が合わなかったり、交通渋滞等でバスが遅れた場合など)

A.通学の安全性の観点から、小学生の自転車通学は考えておりません。

Q.スクールバスの乗降予定地の安全性やルートと予定本数について気になる。

実際にスクールバスを使用している事例について知りたい。

A.スクールバスのルートや運行本数、乗降場所については、(仮称)学校開校準備委員会にて新たな通学路を設定することと合わせて検討していきます。その際には、先進自治体での好事例を参考にしていきたいと考えています。



スクールバス導入の先進事例について、8ページで紹介します

スクールバスを導入している先進事例について

学校名	対象者	費用負担	乗り遅れた場合の対応	下校時の対応
南松尾はつが野学園 (大阪府和泉市)	指定する地域に居住する児童 指定する地域に居住する生徒	なし	保護者等により 送迎対応	下校便を時間帯ごとに7使用意
能勢ささゆり学園 (大阪府能勢町)	通学距離が概ね3km以上の児童 通学距離が概ね6km以上の生徒	なし	保護者等により 送迎対応	下校便を時間帯ごとに3使用意
千代田義務教育学校 (茨城県かすみがうら市)	通学距離が概ね2km以上の児童	なし	保護者等により 送迎対応	下校便は1便、バス利用者は全 学年一斉下校 (低学年は高学年の下校時間まで 教職員対応の上待機)
江戸川小中学校 (埼玉県春日部市)	1年生から6年生までの希望者	なし	保護者等により 送迎対応	下校便を時間帯ごと、ルートご とに3便ずつ用意

Q.交通渋滞等により、バスが停留所に遅れて到着するときの対応は？

A.保護者宛一斉メール機能等でお知らせする事例が多くみられます。
バスのダイヤは、僅かな遅延では始業に影響がないよう設定されています。

第1回懇談会でいただいたご質問について

Q.校舎建替えはあるのか？校内での小・中区切りは？高層化や屋上の利用予定は？

A.校舎のレイアウトや設計図等、具体的な検討については、今後、(仮称)学校開校準備委員会において、地域・保護者・学校関係者の皆様とともに行っていきますが、現在の葛城中学校の校舎老朽化状況を踏まえると、校舎の建替えも必要になるものと考えています。

また、施設一体型小中一貫校の先進事例からは、小中学生の相互交流を促すランチルームや共用図書室等を整備する一方、普通教室については別棟で整備するといった工夫がみられます。

校舎の高層化については、用途地域が第1種低層住居専用地域であることから、一定の高さ制限はありますが、屋上の利活用も含め、子どもたちがゆとりをもって校舎を活用できるよう検討していきます。

施設整備の際は、子どもたちが安全・安心に過ごすことができる学び場づくりを最優先に取り組みます。



先進事例での施設整備について、10ページと11ページで紹介します

施設一体型小中一貫校整備の先進事例について -1-



高円寺学園
屋上プレイコート

東京都杉並区立「高円寺学園」

- 校舎屋上にプレイコートを設置。
遊びのほか、体育の授業を行うことも可能。
- 屋上には別途テラス部分もあり、野菜や植物を育てる学校菜園として活用されている。



高円寺学園
屋上テラス

愛知県飛島村立「飛島学園」

- 1～4年生、5～7年生、8～9年生それぞれの普通教室を結ぶ中央部に「メディアセンター」（図書室）を設置。
- 異学年交流を促すとともに、学校全体として図書に触れる機会を創出。



飛島学園
メディアセンター

施設一体型小中一貫校整備の先進事例について -2-

笹島小中学校
外観（運動場）



愛知県名古屋市立「笹島小中学校」

- 限られた敷地(約6,579㎡)を最大限に活用するため、体育館棟の屋上部分を運動場に。
- 低学年向けスペースは吹き抜け部分に設置。
- 体育館はバスケットコート3面分の広さ。

笹島小中学校
体育館



笹島小中学校
吹き抜け



ほそごう学園
中庭



大阪府池田市立「ほそごう学園」

- 既存の中学校校舎を活用しつつ、一部増築を行い施設一体型小中一貫校として整備。

第1回懇談会でいただいたご質問について

Q.なぜ実施計画(案)を策定する前に校区懇談会を設置して議論しなかったのか？

A.市民の皆様には、世代といった個人の属性や、お住いの地域、地域活動との関わり、行政に求める施策の優先順位など、お一人お一人が様々であり、お考えやご意見も異なることから、事前に校区懇談会を設置し、各校区それぞれの意見を全て取り入れた計画案を作ることは現実的ではありません。

よって、まずは市と教育委員会が、市域全体のバランスを見極め、公正・中立な立場から、責任を持って計画案を取りまとめ、これをたたき台にして校区懇談会を中心に市民の皆様から幅広くご意見をお聞きし、成案化していくべきと考えています。

地域の皆様からいただくご意見で、広く市民の賛同が得られるものについては、計画案に取り入れ、必要な修正を行います。

Q.施設一体型小中一貫校を設置する場合と、例えば小学校を修斉小学校に統合した場合のイニシャルコスト・ランニングコストの比較はどうなる？

A.施設の整備費用(イニシャルコスト)については、整備する規模や面積等に左右されるため、小中一貫校と小学校単独の整備において単純な比較は難しいと考えますが、ランニングコストについてはスケールメリットにより、小中一貫校の方が小学校と中学校それぞれの合計よりも安くなるということが一般的に想定できるのではないかと考えます。

現在の計画案はコスト面からではなく、子どもたちの教育充実の観点から提案しています。

第1回懇談会でいただいたご質問について

Q.(仮称)葛城小中一貫校を設置する場合の、常盤・旭・太田小学校や、桜台・土生中学校の学級見込数はどのようになる？

(学級数は通常学級)

小学校	R10		R11		R12		R13		R14		R15	
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数
常盤	19	606	18	591	18	601	18	597	18	595	18	602
旭	17	522	17	528	17	515	18	533	18	533	18	534
太田	15	433	15	437	14	428	13	422	13	436	12	419

(再編後)	R10		R11		R12		R13		R14		R15	
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数
常盤	18	515	18	502	18	511	18	510	18	508	18	514
旭	14	440	14	446	13	435	13	451	13	449	13	452
太田	13	413	13	416	13	408	13	402	13	415	12	399

中学校	R10		R11		R12		R13		R14		R15	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
桜台	18	661	17	639	16	603	15	572	15	550	14	519
土生	12	416	12	420	13	450	13	450	13	445	12	440

(再編後)	R10		R11		R12		R13		R14		R15	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
桜台	15	592	15	583	15	552	15	523	15	503	14	472
土生	12	372	12	374	12	400	12	399	12	395	12	392

A.適正化の影響を受ける各校とも、適正な学校規模(12~18学級)が維持されます。

第1回懇談会でいただいたご質問について

Q.特認校の取組事例で「大学等と連携」とあったが、どこを想定している？

A.特認校における特色ある教育活動の内容については、地域・保護者の皆様のご意見を踏まえ決定していきます。

先進事例では、次のような近隣の大学と連携している事例があります。

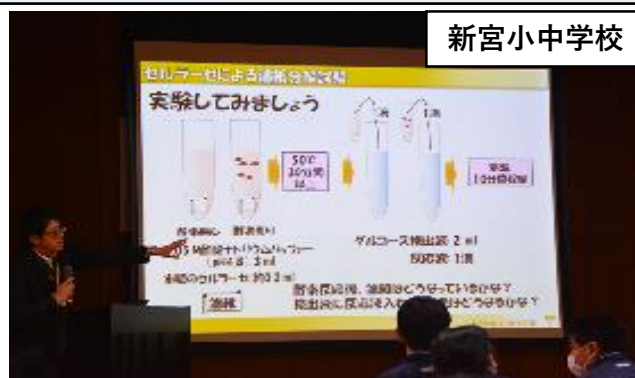
学校名	連携している大学	主な取組内容
永寿小学校 (大阪府貝塚市)	大阪体育大学	学生が体育の授業を指導。 また、放課後の遊び等に関わることもある。
大場小学校 (茨城県水戸市)	筑波大学	大学教員が体育の授業を指導。 教職員へのアドバイスも実施。
新宮小・中学校 (愛媛県四国中央市・小中一貫型小中学校)	愛媛大学	ロボット教材を活用したプログラミング教育を実施。 また、紙やプラスチックの加工分解といった内容も。



永寿小学校



大場小学校



新宮小中学校

第1回懇談会でいただいたご質問について

Q.施設一体型のメリットがよくわからない。

- ・葛城、山滝校区の施設一体型小中一貫校と、他校とのアンバランスは問題ない？
- ・リモートの活用で、施設が離れていても一貫教育が可能では？
- ・デメリットもあるのでは？

A.近年の教育内容の多様化や、児童生徒の発達の早期化に対応する必要性などから、これまでの小学校6年間、中学校3年間の枠組みにとらわれず、9年間の系統性、連続性に配慮した一貫性のある教育活動が重要であり、本市でも小中一貫教育を推進しています。

施設一体型では、小学校と中学校が同じ施設(同じ敷地)にあり、物理的に距離が近いため、教員間の連携や児童生徒の交流がより行いやすく、小中一貫教育を行う上で大きなメリットになるものと考えており、葛城中学校区においては、各学校の規模や配置バランスを考慮の上、施設一体型が望ましいと判断したものです。

また、施設分離型における小中一貫教育については、ご意見にあるリモート学習等を活用することで小学校と中学校が同じ「めざす子ども像」を共有し、系統的で連続性のある教育活動を展開していきます。

施設一体型小中一貫校(教育)について、16ページ～18ページで紹介します

施設一体型小中一貫校(小中一貫教育)の利点と課題について

【小・中学生に共通する利点と課題】

利点	<ul style="list-style-type: none">◆中学校区における「めざす子ども像」の共有により、同じ方向性をもって教育を進められる◆小・中学校教員間の共通理解を醸成した上で子どもたちを指導し、見守ることができる
課題	<ul style="list-style-type: none">◆休み時間や授業中、放課後の活動場所が限られる可能性がある◆小・中間で授業時間が異なるため、チャイムの鳴らし方に工夫が必要

【小学生にとっての利点と課題】

利点	<ul style="list-style-type: none">◆小学校高学年から教科担任制を導入することで、専門的な学習による学力向上に期待できる◆普段から中学生と交流することで、先輩に憧れる心を醸成しやすい◆中学校進学に対する不安の解消により、適応力・期待感を高めることができる
課題	<ul style="list-style-type: none">◆小学校6年生でリーダーシップを発揮する機会が少なくなりやすい◆中学生のテスト期間には休み時間の遊びに制限が生じやすい

【中学生にとっての利点と課題】

利点	<ul style="list-style-type: none">◆普段から小学生と交流することで、後輩を優しく見守る心を醸成しやすい◆自身の小学校時代を知る教員が身近にすることで、安心して相談等を行える
課題	<ul style="list-style-type: none">◆進学による自覚の芽生えが薄れてしまう可能性がある

施設一体型小中一貫校(小中一貫教育)の利点と課題について

【先進事例での課題解消策など】

◆休み時間や授業中、放課後の活動場所が限られる可能性がある

☆体格差や学年区切りに応じた校舎整備を図るとともに、屋外活動では低学年用の遊具スペースや、サブグラウンドを整備し、動線の区別や活動場所の確保を図る。

◆小・中間で授業時間が異なるため、チャイムの鳴らし方に工夫が必要

☆【事例】休憩時間を調整し、授業開始時間を小中で合わせる。
(小学生は15分休憩、中学生は10分休憩、授業終了時はノーチャイム)

◆中学生のテスト期間には休み時間の遊びに制限が生じやすい

☆【事例】テストの妨げにならない過ごし方を伝え、自身が中学生になった際の心構えを身につけるきっかけとする。
☆【事例】普通教室を小・中別棟式で整備する。

◆小学校6年生でリーダーシップを発揮する機会が少なくなりやすい

◆進学による自覚の芽生えが薄れてしまう可能性がある

☆【事例】普段からの異学年交流により、6年生という時期に限らずリーダー性を育む。
☆【事例】4年生の1/2成人式、6年生のステージ進級式、7年生の立志式等の取組により、学年の区切りを意識させる。

施設一体型小中一貫校の特徴について

【施設一体型】でしかできないこと or 容易にできること

学校運営の視点

- ◆職員組織・職員室が一体化できる
- ◆小・中合同の授業研究会や交流・会議などがより容易に開催できる
⇒小・中教員間での日々の交流や連携が行いやすい
⇒小・中教員間での共通理解を醸成しやすい

教育活動の視点

- ◆小学生児童と中学生生徒による日常的な交流ができる
⇒後輩を優しく見守る・先輩に憧れる心、自尊感情を醸成しやすい
- ◆相互乗り入れ指導の際に移動時間が軽減できる
- ◆小学校高学年での教科担任制や部活動参加など、中学校生活がより容易に体験できる

		小中一貫教育の総合的な成果				合計	スコア	
		大きくある	ある	あまりない	ほとんどない			
施設 種類	施設一体型	度数	37	101	4	0	142	3.23
		%	26.1%	71.1%	2.8%	0.0%	100.0%	
	施設隣接型	度数	6	39	4	1	50	3.00
		%	12.0%	78.0%	8.0%	2.0%	100.0%	
	施設分離型 (一対一)	度数	21	131	19	2	173	2.99
		%	12.1%	75.7%	11.0%	1.2%	100.0%	
	施設分離型 (一対多)	度数	43	555	98	4	700	2.91
		%	6.1%	79.3%	14.0%	0.6%	100.0%	
	その他	度数	5	44	8	0	57	2.95
		%	8.8%	77.2%	14.0%	0.0%	100.0%	
合計	度数	112	870	133	7	1,122	2.97	
	%	10.0%	77.5%	11.9%	0.6%	100.0%		

文部科学省が平成26年に実施した「小中一貫教育等についての実態調査」においても、【施設一体型】において成果がより大きいと示されている

第1回懇談会でいただいたご質問について

Q.複式学級になる基準を教えてください。

例えば3校のうち1校が複式学級になった場合、どのような学校配置になる？

A.2学年を合わせても16人以下(1年生を含む場合は8人以下)の場合、異なる学年が1つのクラスになる複式学級として編制する基準が定められています。

複式学級については、教育上の課題が極めて大きく、文科省においても学校統廃合等により適正規模に近づけることの適否を速やかに検討する必要があるとされており、複式学級が発生する前に学校再編を含めた適正な学校配置を行う必要があると考えています。

複式学級編制のイメージ(例)

1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
7人	5人	8人	9人	11人	8人

12人

13人

20人

19人

③16人以下でないため、複式学級は編制しない。

②16人以下のため、複式学級編制基準にあたる。

①1年生を含む8人以下でないため、1・2年生の複式学級は編制しない。

第1回懇談会でいただいたご質問について

Q.飛び地等で町境界が錯綜している地域がある。調整区域を設けてもよいのでは？

Q.常盤校区では、門前町の校区は葛城になると、既に決まっているような回答だったと聞く。通学区域見直しは(案)だったと思うが、どのような説明をしているのか？

A.実施計画(案)で通学区域の見直しをお示ししている、旭・太田校区や常盤校区の懇談会では、通学に関するご意見を多くいただいています。具体的な方向性については両校区懇談会での議論を踏まえて決定しますが、調整区域を設けることも含め、柔軟に対応したいと考えています。

Q.本市において小中一貫校制度を始めてから、将来問題が出てきて全市的に進められないときは、市全域のバランスが悪くなるので元に戻すこともある？

A.小中一貫校(小中一貫教育)については、文部科学省においても「小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引」が策定され、また9年間の義務教育を一貫して行う学校の種類である「義務教育学校」の設置を可能とする法改正がなされており、既に制度として確立されていることから、本市においても「岸和田市小中一貫教育基本方針」に基づき、全市的に推進していく考えです。

第1回懇談会でいただいたご質問について

Q.この計画(案)に反対の地域もあると聞く。今後の進め方はどう考えているのか。

	校区	懇談会設置	初回開催日
①	旭・太田	○	5/14
②	常盤	○	5/14
③	山直北・城東	○	6/1
④	修斉	○	6/21
⑤	山滝	○	6/29
⑥	東葛城	参加者調整中	未定
⑦	天神山	合意に至らず	—
⑧	山直南	合意に至らず	—

(令和4年9月8日現在)

Q.幼稚園については触れられていないが、全国的には幼小中一貫校も出来てきている。幼稚園施設などは今後どう考えていくのか？

A.公立幼稚園及び保育所については「岸和田市立幼稚園及び保育所再編方針」及び「岸和田市立幼稚園及び保育所再編個別計画」に基づき、再編に取り組んでいるところであり、今後10年間を目処に、市立幼稚園及び保育所を集約し、認定こども園へ再編する方針が示されています。

第1回懇談会でいただいたご質問について

Q.児童の減少による学校適正化ということが前面に出ているので、抵抗感が強い気がする。

しかし、先日の説明を聞いた後、小中一貫校について調べてみたところ、児童減少は当然の要素ではあるものの、新しい時代の学びを実現するための学校施設の在り方という要素の方が強いのではと感じた。

先日の会議の席でも気になったのは、先進事例として挙げられていたつくば市春日学園の例である。つくば市は人口的には岸和田市と同じ規模のようだが、イメージとしては児童数減少が進んでいるようには思えない。しかし、小中一貫校が整備されているのはどういう理由なのかと疑問がある。

なぜこのような小中一貫校を推進したのか、また、1中学校の学区と学区内の小学校を1つの学園と定めたのか、学園とはどういう意図で整備しているのか等をもう少し詳しく聞きたい。また、それによるメリットとデメリットも分かれば教えて欲しい。



つくば市の学校再編・小中一貫教育について、23ページと24ページで紹介します

茨城県つくば市の学校再編・小中一貫教育について

【茨城県つくば市の施設一体型小中一貫校(義務教育学校)一覧】

学校名	創立年	学校種別	備考
春日学園義務教育学校	2012年	施設一体型義務教育学校(2016年～)	人口増による新設校
秀峰筑波義務教育学校	2018年	施設一体型義務教育学校	7小2中の統合校
学園の森義務教育学校	2018年	施設一体型義務教育学校	春日学園の分離新設校
みどりの学園義務教育学校	2018年	施設一体型義務教育学校	人口増による新設校

【年表】

2005年…つくばエクスプレス(TX)開通、つくば市の人口が増加局面に入る

2009年…「つくば市学校等適正配置計画について(指針)」策定。(人口急増地域と急減地域のアンバランス等に言及)

2012年…全市的な小中一貫教育を正式に導入。(全中学校区の小・中学校を〇〇学園としてまとめ、一貫した教育を実施)
施設一体型小中一貫校として、春日小・中学校(後の春日学園義務教育学校)が開校。

2018年…上記一覧表にある3つの義務教育学校開校。

主な特徴など

- 小・中施設が一体でない校区でも小中一貫教育を実施。1小1中校区から、4小1中校区まで形態は様々。
- 人口増による学校新設と、小規模校の統合による学校新設の両面が見受けられる。
なおTX沿線開発地域では人口・児童数増が続く。今後も併設小・中学校2校、小学校1校が新設予定。
- 生活科・特別活動などを複合した独自科目「つくばスタイル科」の導入や、9年間の系統的な教育により、学力の定着を図ることができた一方、新たな学校では学校規模の過大化が課題となっている。

茨城県つくば市の学校再編・小中一貫教育について



春日学園義務教育学校
異学年交流の様子



学園の森義務教育学校
内観（普通教室）



みどりの学園義務教育学校
内観（メディアルーム）



秀峰筑波義務教育学校
内観（廊下）

第1回懇談会でいただいたご意見について

◆学校適正化を推進するためには、具体的な課題をクリアーしていくとともに、未来志向の教育のあり方・ビジョンも含めて説明していただき、小学校がなくなるというのではなく、新しい教育を構築するのだということを熱く語る必要があるのでは。

◆修斉小学校がなくなることがいいとは思っていないが、子どもたちが夢を持って通える、学べる学校になるのであればうれしい。そのためには、現在お子さんを持たれている方が夢を持てる提案でなければとも思う。

◆山直南校区の再編案は反対により保留するとのこと。
天神山、修斉、東葛城小学校が閉校になる案について、各町会長さんは賛成しているのか。まず、各町会長さんの回答・意見を伺いたい。